

➤ 村田製作所や TDK など電子部品 8 社中 5 社が損益改善 AI 関連好調

2025.2.7 日経

電子部品8社の連結最終損益			
社名	25年3月期	24年4~12月期	進捗率
村田製※	2350(30)	2013(15)	86
ニデック※	1850(49)	1346(▲7)	73
TDK※	1600(28)	1608(35)	101
ミネベア※	↓570(5)	436(22)	77
アルプス アル	↑320 (黒字化)	99 (黒字化)	31
京セラ※	↓200(▲80)	183(▲80)	92
太陽誘電	↑50(▲40)	81(2.2倍)	163
ローム	▲60 (赤字転落)	2(▲99.5)	—

(注) 単位は最終損益が億円、カッコ内は前年同期比増減率%、進捗率は%。▲はマイナスまたは赤字。25年3月期は予想、↑は上方修正、↓は下方修正。※は国際会計基準

➤ 村田製、3 年ぶり最終増益 4~12 月 15%、データ拠点向け伸び

①生成AI(人工知能)サービスを運用するデータセンター向けに、主力製品の積層セラミックコンデンサー(MLCC)などが伸びた。 2025.2.4

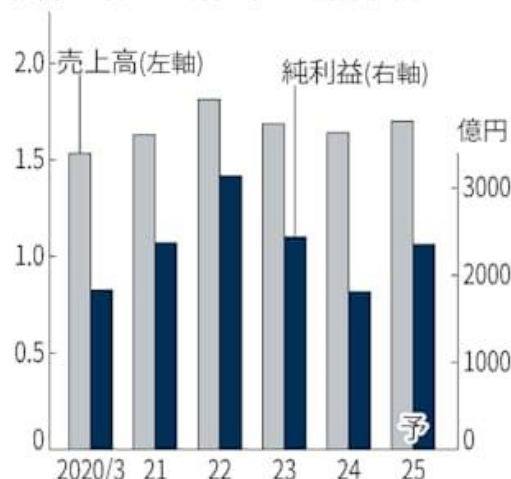
②売上高は7%増の1兆3314億円、営業利益は9%増の2341億円。用途別の売上高をみると、全5分野のうち、スマートフォンなど通信向け、家電向けを除く3分野で増収を確保した。特にデータセンター向けなどコンピュータが44%増の2127億円と好調だった。

③中島規巨社長は「26年3月期にかけてAIサーバー関連は2倍以上の伸びを見込む」と話した。自動車関連などモビリティは6%増の3425億円。ガソリン車でもセンサーやカメラなど電装部品の搭載が増えていることが下支えした。(中島社長)



中島社長

兆円 村田製作所の連結業績



(注) 22年3月期まで米国会計基準、ほかは国際基準

## ➤ 京セラ純利益 8 割減 200 億円 25 年 3 月期、リーマン下回る

2025 年 2 月 3 日 日経新聞

①京セラは 3 日、2025 年 3 月期の連結純利益(国際会計基準)が前期比 80%減の 200 億円になりそうだと発表した。リーマン・ショックの影響を受けた 09 年 3 月期を下回り、00 年 3 月期以降では最低。

②半導体チップとプリント基板回路などを連携させる有機パッケージと、米子会社が手掛ける自動車向け電子部品が不振で、減損損失を計上することで利益水準が大きく落ち込む。



③有機パッケージは世界的に生成 AI(人工知能)サービスを運用するデータセンターで使われる画像処理半導体(GPU)向けの需要が拡大しているが、京セラは従来型のサーバー向けが中心で、先端分野の顧客開拓が進んでいない。谷本秀夫社長は 3 日「汎用向けは回復が見込めない状況」と説明した。

④自動車向けを中心に電子部品事業も低迷する。米子会社、KAVX が手掛ける欧州自動車メーカー向けコンデンサーが不振で、新工場の稼働率低迷で人件費も膨らむ。

⑤業績の急激な悪化に対応して、株主還元を強化する。26 年 3 月期に 2000 億円程度の自社株買いを実施すると発表した。発行済み株式総数の約 9%に相当する。

⑥また、従来は 2 年としていた取締役の任期を 1 年に変更すると発表した。

⑦谷本社長は 3 日の会見で「リスクのある事業をきっちりと処理することで、来期以降には問題を引きずらないようにする。来期 1 年間で体質を改善して、後任にバトンを渡したい」と語った。